

報道関係者各位

## 『IQVIA IMS ジャパン トップライン市場データ』

**国内医療用医薬品市場 暦年では 2010 年以降初めて前年を下回る  
 2017 年暦年(2017年1月－12月)、10 兆 5,150 億円(前年比 1.0%減)  
 2017 年第 4 四半期(10 月－12 月)、2 兆 8,600 億円(前年比 2.9%増)**

- 2017 年暦年では、薬価ベースで 10 兆 5,148 億 78 百万円(前年比－1.0%、約 1,090 億円減)。3 年連続の 10 兆円超だったが、2010 年以降、暦年として初めて前年を下回った。
- 2017 年暦年の市場別では、病院市場(病床 100 床以上)が 4 兆 5,000 億円(前年比 1.4%減)。3 市場(病院・開業医・薬局その他)の中で、2010 年以降唯一プラス成長を続けてきたが、2017 年は病院を含む 3 市場全てが前年を下回った。
- 2017 年暦年の上位 10 薬効では、2012 年からトップを維持する「L01 抗腫瘍剤」が、薬効領域全体として初めて 1 兆円を突破した。

2018 年 3 月 1 日、アイ・エム・エス・ジャパン株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:宇賀神史彦)は、2017 年暦年(2017 年 1 月－12 月)と、2017 年第 4 四半期(10 月－12 月)の日本医療用医薬品市場(薬価ベース)を、「IQVIA IMS ジャパン トップライン市場データ」として発表しました。

IMS ジャパンは、日本のヘルスケア産業の発展と透明性の創造、および社会の皆様により日本のヘルスケア市場についての理解を深めていただくため、市場規模や薬効、製薬企業および医薬品の売上、処方、疾病に関するトップラインデータをメディアや医療・医学の研究に携わっている学術研究機関に提供しています。トップラインデータを開示することで、弊社は皆様と情報の共有化を図り、日本のヘルスケアの発展に貢献したいと考えています。

**【2017 年暦年(2017 年 1 月－12 月)】日本医療用医薬品市場トピックは以下の通りです。**

- 当該期間の日本医療用医薬品市場は、前年を率で 1.0%減、額で 1,090 億円余下回る 10 兆 5,148 億 78 百万円。3 年連続の 10 兆円超だったが、2010 年以降、暦年では初めて前年を下回る。
- 病院市場(病床 100 床以上)は、4 兆 5,092 億 56 百万円(前年比 1.4%減)。3 市場(病院・開業医・薬局その他)の中で、2010 年以降唯一プラス成長を続けてきたが、2010 年以降で初めて、病院を含む 3 市場全てが前年を下回った。
- 売上規模による上位 10 薬効のうち、2012 年からトップを維持する「L01 抗腫瘍剤」は、薬効領域全体として初めて 1 兆円を突破。

## 【2017年第4四半期(10月-12月)】日本医療用医薬品市場トピックは以下の通りです。

- 当該期間の日本医療用医薬品市場は、2兆8,576億50百万円（前年比2.9%、816億12百万円増）。病院市場(病床100床以上)が1兆2,235億27百万円（同3.8%増）、開業医市場(病床100床未満)が6,132億45百万円（同1.8%増）、薬局その他市場(主に調剤薬局)は1兆208億78百万円（同2.7%増）。病院市場の1兆円超は2015年第2四半期から続くが、薬局その他市場の1兆円台は2015年第4四半期以来のこと。
- 上位10薬効の順位では前年比で、薬効領域トップのL01抗腫瘍剤、2位A10糖尿病治療剤は変わらなかったが、B01抗血栓症薬が一つ上げて3位に、L04免疫抑制剤が2つ上げて4位になったほか、9位のS01眼科用剤、10位のN07その他の中枢神経系用剤がそれぞれランクインした。

### \* IMS ジャパン「日本医薬品市場統計」における「薬効」は ATC 分類に準拠しています。

「ATC分類(Anatomical Therapeutic Chemical Classification)は、薬の消費量に関する国際的な統計を取るために考案された医薬品の分類法。WHOの医薬品統計法共同研究センター(Collaborating Centre for Drug Statistics Methodology)で統括管理されている。薬効、作用部位・器官および化学的特徴によって5段階レベルで分類され、原則的に一成分の主薬効に対して1つのコードが付与される。」  
(公益社団法人 日本薬学会「薬学用語解説」より抜粋)

### \*\*IMS ジャパン「日本医薬品市場統計」における「販売会社レベル」と「販促会社レベル」の定義は以下の通りです。

- 販売会社レベル:卸店に対して製品を販売し、その代金を回収する機能を持つ製薬企業。
- 販促会社レベル:MRによる学術宣伝を通じて販促活動を行なっている製薬企業。

## IQVIA について

IQVIA (NYSE:IQV)は、情報や革新的テクノロジー、及び臨床試験サービスを提供する世界的なリーディングカンパニーであり、データとサイエンスを駆使して、ヘルスケアに関連するお客様が患者様により良いソリューションを提供することに貢献しています。IMS HealthとQuintilesが統合することで誕生したIQVIAは、ヘルスケアの発展に寄与する医療情報、テクノロジー、分析力および人知による創意工夫を活用した幅広いソリューションを提供しています。私たちIQVIAは、お客様が新たなアプローチで臨床開発や製品の上市・販売を実現し、自信を持ってイノベーションに取り組み、いち早く有意義なヘルスケアアウトカムを実現できるようお手伝いします。世界100カ国以上で活躍する、およそ5万5000人の当社社員一人一人が、ヒューマンデータサイエンスの実現に尽力しています。この、ヒューマンデータサイエンスの原動力は「IQVIA CORE™」であり、ビッグデータ、革新的なテクノロジーと専門的かつ広範な知識に裏付けされた分析力とを結集した、実用的かつ唯一無二のインサイトによってこれらを可能にしているのです。

IQVIAは、患者様の個人情報の保護の分野においても世界をリードしています。ヘルスアウトカムを発展させるのに必要な情報を収集し分析する一方で、様々なプライバシー保護のための技術や安全対策に取り組んでおります。IQVIAが持つインサイトや実行力は、患者様の治療・治癒の実現を目指すバイオテクノロジー企業、医療機器メーカー、製薬企業、医学研究者、政府機関、保険者その他の医療関係者の皆様が、疾患や人間行動、サイエンスの進歩を追求するのにきっとお役に立てるものと考えております。IQVIAの詳細な情報はこちら([www.IQVIA.com](http://www.IQVIA.com))をご覧ください。日本向けのURLはこちら([www.iqvia.co.jp](http://www.iqvia.co.jp))

※IMS HealthとQuintilesのグローバル統合ブランド“クインタイルズ IMS”は、2017年11月6日(米国東部標準時)に“IQVIA”となりました。日本法人では2018年4月1日をもちまして社名・ブランドを変更予定です。

**本件に関するお問合せ先**

IQVIA 広報マーケティングチーム 広報担当

TEL 03-6894-5420

Email [jp.coms@iqvia.com](mailto:jp.coms@iqvia.com)